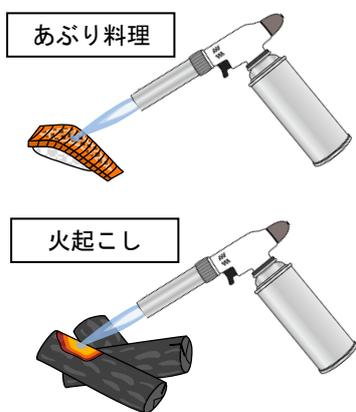




## 事故原因の7割が製品に問題 ～ガス“漏れ”バーナーに新たな規制～

調理やアウトドアで便利なガスバーナー（いわゆる「ガストーチ」）ですが、粗悪な製品（主に海外製）での事故が多く発生しています。このような事故を防ぐため、2025年2月6日から新たにガストーチが「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」の規制対象となりました（詳細は別紙1を参照）。しかし、すでに購入済みの製品や、1年間の経過措置期間中に流通している製品の中には、安全性が劣っているおそれのある製品も存在していることから、引き続き事故の発生が懸念されます。独立行政法人製品評価技術基盤機構 [NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原] はガストーチの安全な使用方法について注意喚起を行います。



ガストーチの使用用途例とガス漏れして引火した再現映像

NITE に通知があった製品事故情報<sup>※1</sup> では、2019 年度から 2023 年度までの 5 年間にガストーチの事故<sup>※2</sup> は 129 件ありました。そのうち、製品の不具合が関係する事故が 7 割（調査中の案件を除く）となっており、特に海外製のガストーチで製品不具合による事故が多く発生しています。

手軽に使うことができ便利なガストーチですが、やけどを負ったり火災になったりする危険性がありますので、「購入時」及び「使用时」の気を付けるポイントを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

### 【ガストーチ<購入時>の気を付けるポイント】

- PSLPG マークの表示があるか確認する。  
（経過措置期間：2025年2月6日～2026年2月5日はマークがない製品の販売も認められています。）
- 信頼できるメーカー・販売元かどうか確認する。  
（国内の連絡先が明記されているか、装着するカセットボンベ等が指定されているか、理解できる取扱説明書があるかなど）

### 【ガストーチ<使用时>の気を付けるポイント】

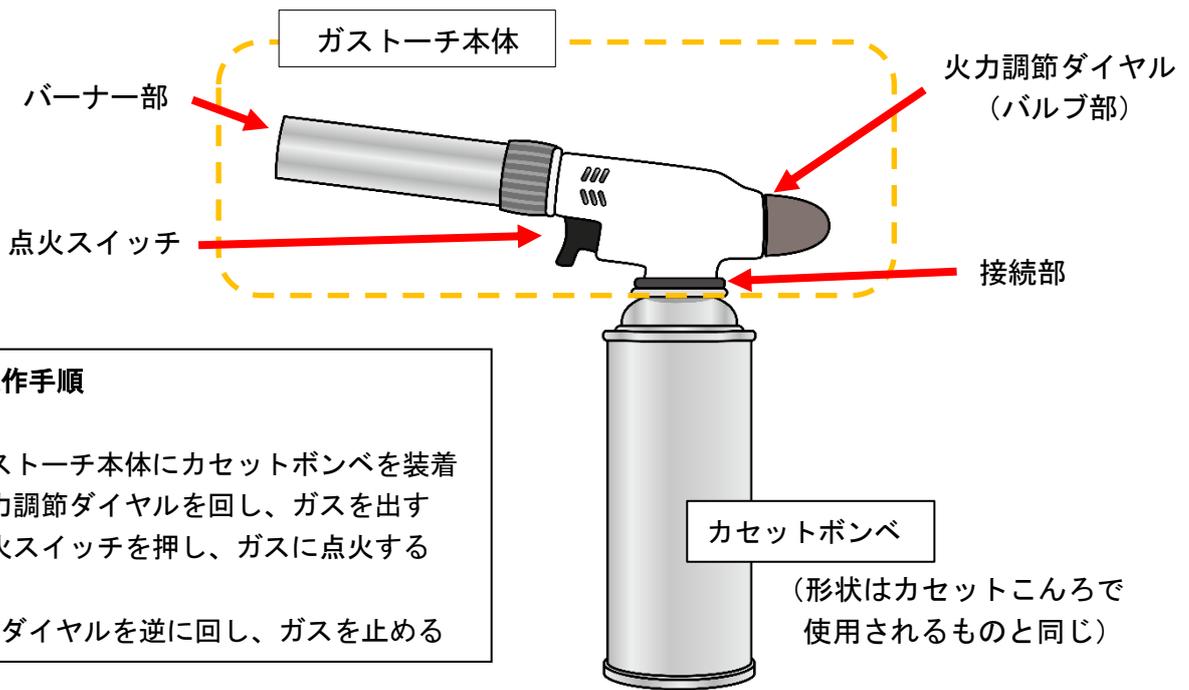
- カセットボンベ等に装着する前に製品の点検を行い、装着後に異音や異臭などの異常がないか確認する。
- 点火はカセットボンベ等を立てた状態で行う。  
大きく傾けて異常燃焼が生じた場合、直ちに立てた状態に戻す。

（※） 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

（※1） 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

（※2） ガストーチが取り付けられたカセットボンベ（GB缶）やアウトドアボンベ（OD缶）で発生した事故も含みます。

## ガストーチの構造例



### 一般的な操作手順

#### ・点火

- ① ガストーチ本体にカセットボンベを装着
- ② 火力調節ダイヤルを回し、ガスを出す
- ③ 点火スイッチを押し、ガスに点火する

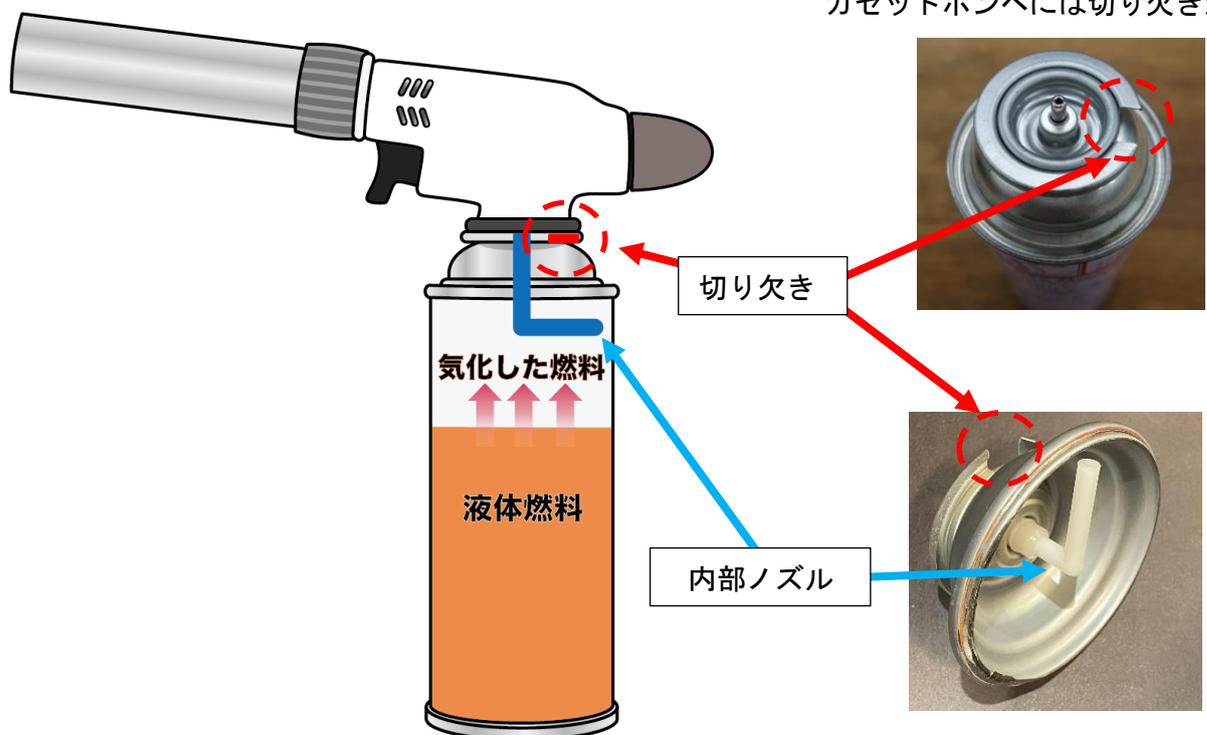
#### ・消火

火力調節ダイヤルを逆に回し、ガスを止める

## ガストーチに装着するカセットボンベの構造

カセットボンベには、ブタンなどの可燃ガスに圧力を加えて液体にした燃料（液化石油ガス（LPG））が詰められており、使用時は、気化した燃料が出てくるように作られています。

カセットボンベには切り欠きがある



切り欠きの位置と内部ノズルの先が一致するようになっており、使用時には気化した燃料が出るように作られている。

## 1. 事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2019 年度から 2023 年度までの 5 年間に発生したガストーチの事故 129 件について、事故発生状況を以下に示します。

### 1-1. 年度別の事故発生件数

ガストーチの事故 129 件について、年度別の事故発生件数を図 1 に示します。5 年間でリコール製品<sup>※3</sup>での事故も 26 件発生しており、全体の 2 割を占めています。そのうち、15 件はリコールが開始された後に発生しており、お使いの製品がリコール対象となっていないか確認することが大切です。

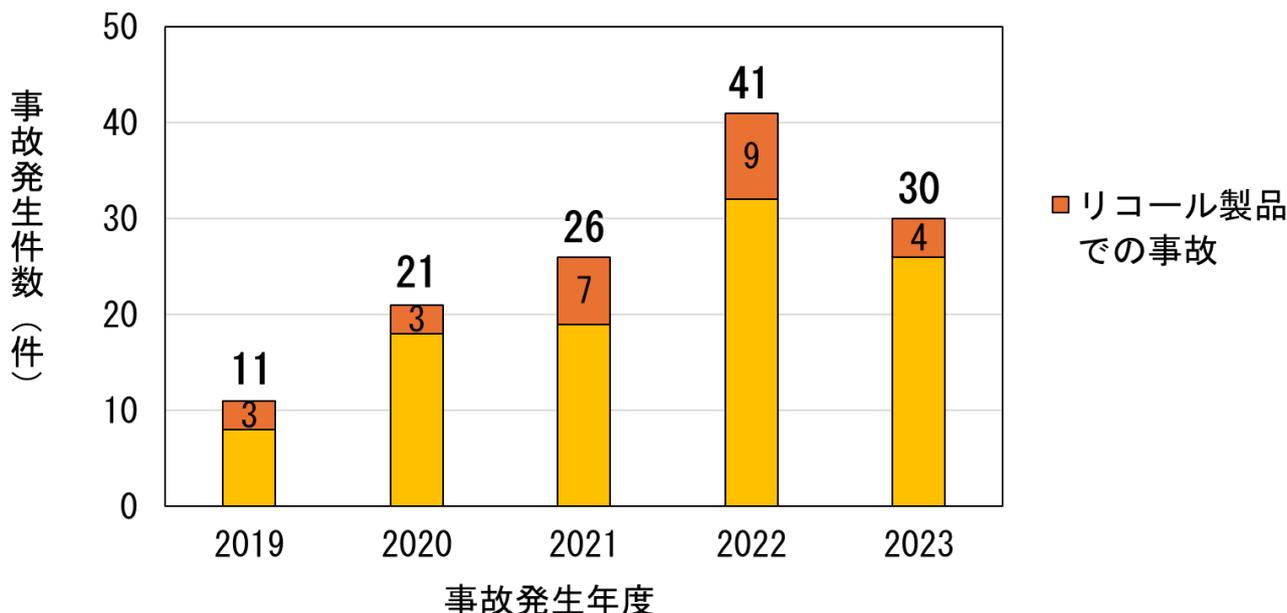


図 1 年度別の事故発生件数

(※3) 事業者が消費生活用製品による事故の発生及び拡大の可能性を最小限にすることを目的に行う、製品の回収、交換、点検、修理、注意喚起などのことをリコールと呼びます。本資料では、経済産業省または NITE で公表しているリコールの対象製品に限ります。

### 1-2. 事故の被害状況

ガストーチの事故 129 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。事故の 9 割以上が火災事故になっており、やけどや周囲の物品が焼損するといった被害が多く発生しています。

表 1 被害状況別の事故件数<sup>※4</sup>

被害状況		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	総計
人的被害	死亡						0 (0)
	重傷		2 (2)		1 (1)	1 (1)	4 (4)
	軽傷	1 (1)	6 (6)	3 (5)	8 (8)	11 (11)	29 (31)
物的被害	拡大被害 <sup>※5</sup>	7	8	15	22	8	60
	製品破損	3	5	7	9	9	33
被害なし・不明				1	1	1	3
総計		11 (1)	21 (8)	26 (5)	41 (9)	30 (12)	129 (35)
うち火災件数		[9]	[20]	[25]	[38]	[29]	[121]

(※4) () は被害者数、[] は火災件数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあ

ったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていません。

(※5) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

### 1-3. 原因別の事故発生件数

調査中の案件 20 件を除いた 109 件の事故について、原因別の事故発生件数を図 2 に示します。「製品に起因する」、「製品起因だが詳細原因は不明」といった製品の不具合が関係する事故が 7 割を占めています。

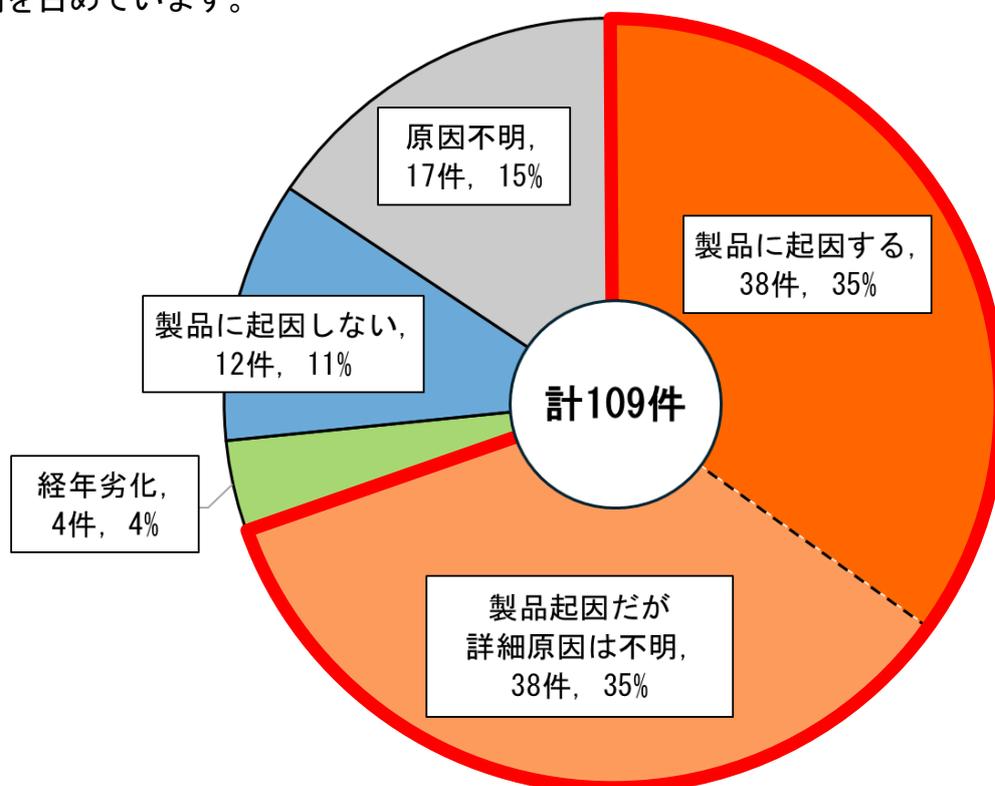


図 2 原因別の事故発生件数

### 1-4. 「製品の不具合が関係する事故」の事象別の事故発生件数

1-3 において「製品に起因する」、「製品起因だが詳細原因は不明」といった製品の不具合が関係する事故に該当する 76 件について、事象別年度別の件数を表 2 に示します。これらの事故は、設計不良、製造不良、品質管理不足等といったことが要因となっています。特に、O（オー）リング<sup>※6</sup>の不具合によってガス漏れが生じ、引火したことによる事故が多数発生しています。

表 2 「製品の不具合が関係する事故」の事象別の事故発生件数

事故事象	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	総計
Oリングの不具合によるガス漏れで引火	2	6	14	27	9	58
ボンベ取付け部の固定ねじの締め付け不良によるガス漏れで引火	1	1	2	2	1	7
傾けて使用したことによる異常燃焼（取扱説明書の不備）		3				3
その他		5	1		2	8
<b>総計</b>	<b>3</b>	<b>15</b>	<b>17</b>	<b>29</b>	<b>12</b>	<b>76</b>

(※6) ガス機器の燃料供給接続部分に使用される断面が円形の環型をした燃料漏れ防止用ゴムパッキン。

### 1-5. 「製品の不具合が関係する事故」の製品購入先別の事故発生件数

1-3において「製品に起因する」、「製品起因だが詳細原因は不明」といった製品の不具合が関係する事故に該当する76件について、製品の購入先及び製造・輸入事業者が判明したか否かの件数を表3に示します。インターネットで購入した製品による事故が多く、特に販売元が海外であった等により製造・輸入事業者が特定できなかった「事業者不明」の事故が多くなっています。

表3 「製品の不具合が関係する事故」の製品購入先別の事故発生件数

購入先	製造・輸入事業者が判明	製造・輸入事業者が不明	総計
インターネット	28	35	63
実店舗など	4	1	5
不明	8		8
総計	40	36	76

### 1-6. 「製品の不具合が関係する事故」の生産地別の事故発生件数

1-3において「製品に起因する」、「製品起因だが詳細原因は不明」といった製品の不具合が関係する事故に該当する76件について、製品の生産地別の件数を表4に示します。海外製のガストーチでの事故が目立っています。また、不明となっているのは、「事業者不明」のため生産地の詳細が確認できなかったものですが、その多くは事故が発生している海外製のガストーチと類似した製品でした。

表4 「製品の不具合が関係する事故」の生産地別の事故発生件数

生産地	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	総計
日本						0
海外	3	11	13	21	1	49
不明		4	4	8	11	27
総計	3	15	17	29	12	76

## 2. 事故事例

#### ■ オリングの不具合によるガス漏れで引火（設計不良）

事故発生年月 2022年2月（愛知県、年齢・性別不明、拡大被害）

##### 【事故の内容】

ガストーチを使用中、周辺を焼損する火災が発生した。

##### 【事故の原因】

カセットボンベ接続部のオリングが収縮してガスが漏れたと考えられ、オリングの設計不良と推定される。

##### 【再発防止措置】

輸入事業者は、2022年7月25日よりホームページにてリコール情報を掲載し、当該型式を含む2機種について使用を中止し廃棄するよう記載している。また、該当する購入者全員に同内容でダイレクトメッセージを送信し、廃棄を確認できた購入者に対して返金の対応を行っている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガストーチ オリング 設計不良

■オリングの不具合によるガス漏れで引火（品質管理不足）

事故発生年月 2019年4月（兵庫県、40歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

ガストーチに他社製のカセットボンベを接続して使用しようとしたところ、ガストーチ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

火力調節ダイヤル内部のオリングに異物が挟まっていたことから、当該箇所が生じた隙間からガスが漏れ、点火した際に引火したものと推定される。

【再発防止措置】

輸入事業者は、その後同様の事故が発生したため販売を中止した。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガストーチ オリング 異物

■ボンベ取付け部の固定ねじの締め付け不良によるガス漏れで引火（製造不良）

事故発生年月 2023年8月（東京都、年齢・性別不明、製品破損）

【事故の内容】

ガストーチを使用中、当該製品から出火する火災が発生した。

【事故の原因】

ガスボンベ取付け部の固定ねじに締め付け不良があったため、取付け部に隙間が生じてガスが漏れ、バーナーの火が引火して火災に至ったものと推定される。

【再発防止措置】

輸入事業者は、2014年12月11日付けで新聞及びホームページに社告を掲載し、固定ねじを規定トルクで締め付け直した対策品との交換を実施している。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガストーチ 不良 社告

■傾けて使用したことによる異常燃焼（取扱説明書の不備）

事故発生年月 2020年5月（滋賀県、30歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

ガストーチに他社製のカセットボンベを接続して使用中、ガストーチ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

ガストーチ自体に異常は認められないが、火口を下向きや上向き等で使用した際に異常燃焼する可能性が考えられる構造であるにもかかわらず、注意警告表示が記載されていなかった。そのため、使用者が下向きや上向き等にして使用してしまい、異常燃焼したガストーチをシンクに投げ込んだ後もシンク内で異常燃焼が継続し、カセットボンベが過熱されて破裂したものと推定される。

【再発防止措置】

輸入事業者は、同製品の輸入及び再販売を中止した。なお、事業者のホームページにおいて使用方法に関する注意喚起を実施している。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガストーチ 向き 異常燃焼

### 3. 気を付けるポイント

#### 購入時に気を付けるポイント

##### ●PSLPG マークの表示があるか確認する。

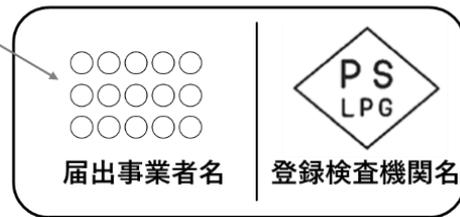
2025年2月6日から、国の定める安全に関する基準を満たしていることを第三者である登録検査機関<sup>※7</sup>が確認等したガストーチには、「◇（菱形）PSLPG マーク」が表示されることになりました（詳細は別紙1を参照）。この基準の中で、ガス漏れが生じないかの気密性、高温や使用回数に耐えうるかの耐久性などが求められています。

1年間（2025年2月6日～2026年2月5日）の経過措置が設けられていますが、2026年2月6日以降はマークが表示されていない製品の販売が禁止されます。PSLPG マークの近くに、製造・輸入事業者名と国に登録された検査機関名（略称や登録商標の場合もあります）が表示されているかをご確認ください。



◇PSLPG マーク

製品型式  
製造年月  
製造番号  
など



製品への表示イメージ

なお、経過措置期間中は、PSLPG マークの表示がない（技術基準に合致しない）製品の販売も認められていますが、できるだけ PSLPG マークまたは JIA 認証<sup>※8</sup> マークが表示された製品の購入を推奨します。もし、これらのマークがない製品を購入する場合は、次のポイントを特に注意してください。

(※7) 2025年2月6日に、ガストーチの登録検査機関として、一般財団法人日本ガス機器検査協会（JIA）が登録されました。

(※8) JIA 独自の検査基準に基づいた認証制度。ガストーチによる事故の実態を踏まえ、業界団体では2020年11月に JIA 認証（自主基準）を策定し、安全を担保する取り組みを開始していました。この基準に適合した製品には JIA マークが表示されています。

##### ●信頼できるメーカー・販売元かどうか確認する。

製品を選ぶ際には、以下の点をご確認ください。

- ・国内の連絡先が明記されているか
- ・装着するカセットボンベ等が指定されているか
- ・使い方が理解できる取扱説明書があるか

製品の不具合が関係する事故の約半数が、製造・輸入事業者が不明です。特にインターネットでの購入では、事業者にお問い合わせようとしても連絡先が不明な場合があります。品質管理や購入者への対応をしっかりと行う事業者は、製品に責任を持つ者としてその名称や連絡先を明確にしているはずです。

また、通常は、メーカーにおいて、ガストーチと指定のカセットボンベ等を装着した状態で安全に使用できるか考慮され、設計や品質管理が行われています。装着するカセットボンベ等が指定されていないガストーチは、そのような確認がされていないおそれがあります。

その他、商品説明文などで日本語表記がおかしいもの、日本語の取扱説明書がないもの、他の製品と比較して極端に安価なものも注意が必要です。

## 使用時に気を付けるポイント

- カセットボンベ等に装着する前に製品の点検を行い、装着後に異音や異臭などの異常がないか確認する。

事故の原因の多くはガス漏れによるものです。中には、使用前に異変に気付きながらも使ってしまい、事故につながってしまっている事例もあります。使用する前に以下のとおり必ず点検を行い、ガス漏れが生じていないか確認してください。

- ① カセットボンベ等を装着する前に、接続部やバーナー部に異物が付着していないかを確認。
- ② 火の元から離れた場所でカセットボンベ等を装着し、ボンベがガストーチに確実に固定されていることを確認。



- ③ ガスの漏れる音（「シュー」という異音）やガスの臭い（異臭）がしないかを確認。



ガスの漏れる音がしないか



ガスの臭いはしないか

装着後に異音や異臭などがある場合、ガスが漏れているおそれがあります。直ちに使用を中止してください。

なお、ガストーチ及び接続するカセットボンベ等は、それぞれの製品の取扱説明書や本体表示に記載されている注意事項を確認し、指定された製品同士の組み合わせで使用するようにしてください。

- 点火はカセットボンベ等を立てた状態で行う。

大きく傾けて異常燃焼が生じた場合、直ちに立てた状態に戻す。

ガストーチには、カセットボンベ等を大きく傾けたり、逆さにしたりしても使用できるタイプの製品と、使用できないタイプの製品があります。大きく傾けて使用できないタイプの製品を傾けすぎると、異常燃焼が生じて大きく燃え上がるため、やけどなどのおそれがあります。

適切な製品には、それぞれのタイプに応じた注意事項が取扱説明書に記載されていますので、取扱説明書を確認してください。もし、使用中に傾けて異常燃焼が生じた場合は、直ちにカセットボンベ等を立てた状態に戻してください。

また、どちらのタイプの製品であっても点火する際に傾けていると異常燃焼が生じるおそれがあるため、点火はカセットボンベ等を立てた状態で行ってください。



傾けて点火し異常燃焼

なお、大きく傾けたまま長時間使用し続けるとバーナー部などが熱で損傷するおそれがあります。取扱説明書に記載がある場合を除き、使用中の傾ける角度は45度までを目安としてください。



点火は立てた状態で行う



傾ける角度は45度までを目安に

## 事故事例・リコール情報を確認

### ○過去に発生した事故情報、リコール情報を確認する。

ガストーチの事故の中には、リコールが開始された後に発生したものもあります。お持ちの製品がリコール対象になっていないか今一度ご確認ください。

もしリコールの対象となっている製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者を確認や相談をしてください。そのまま使い続けないようにしてください。

### 【NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト) のご紹介】

NITEはホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称(製品)に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

※製品事故情報を収集し、公開して広く社会で共有して、事故原因の分析・評価や再発防止に活用していくことは重要です。そうした事故情報が活用されて、従来の基準が見直され、安全性の向上した新基準での製品が生まれ、流通・販売されることで、関連事故の減少につながります。

もし製品事故に遭われた場合には、消費者の皆さんは購入先(販売事業者)やメーカー(海外製品であれば輸入事業者等)または消費者ホットライン「188」(最寄りの消費生活センターや消費生活相談窓口)に、また、流通・販売事業者におかれてはそうした製品事故情報を知った場合には当該製品のメーカー等に、それぞれ報告いただくようご協力をお願いします。

### 【消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介】

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

## お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大下 龍蔵

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、岡田 大樹

Mail : [ps@nite.go.jp](mailto:ps@nite.go.jp) Tel : 06-6612-2066

## ガストーチの規制概要

「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」の特定液化石油ガス器具等に、新たに携帯液化石油ガス用バーナー※<sup>1</sup>（いわゆる「ガストーチ」）が指定されました（2025年2月6日施行）。これにより、カセットこんろなどと同じく、技術基準への適合確認※<sup>2</sup>及び検査記録の作成・保存、国に登録された検査機関による適合性検査の受検及び適合証明書の保存をクリアし、PSLPG マークの表示をした製品しか日本国内で販売できなくなります（1年間の経過措置期間あり（2025年2月6日～2026年2月5日））。

（※1）以下のような製品は規制の対象外

- ・ 容器との接続部から火口までが 35 センチメートル以上のもの。
- ・ 配管工事用製品など、ガスホースを介してポンベを取り付けるもの。
- ・ 吸収材など、液化ガスの漏出を防止する機能を備えたポンベを使用するものであり、かつそのポンベとの接続部がねじ式のもの。

（※2）技術基準で義務化された主な項目

- ・ オリング等は液化石油ガスや熱による影響に耐えること。
- ・ 気密試験に耐えること。
- ・ 液化石油ガスを気化する機能を有すること。
- ・ 反復使用に耐えうる耐久性を有すること。

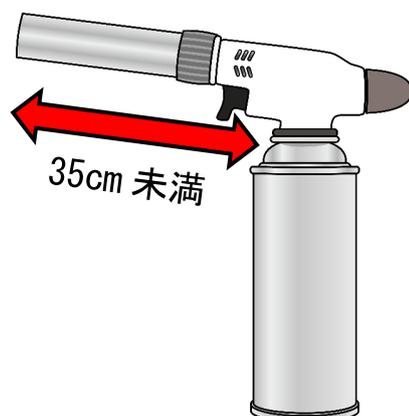
## PSLPG マークについて

製品安全 4 法（消費生活用製品安全法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律、ガス事業法及び電気用品安全法）では、特に事故発生の危険性が高い製品や大きな事故につながりやすい製品（PS マークの対象製品）を指定し、製造または輸入を行う事業者に対して、国が定めた技術基準に適合することが義務付けられています。

その安全に関する基準を満たした製品に表示されるのが「PS マーク」です。液化石油ガス（家庭用プロパンガス、カセットボンベなど）を燃料として使う製品の場合には、液化石油ガスを表す「LPG」の文字が付きます。

また、PS マークには○（丸形）と◇（菱形）の 2 種類があります。◇の PS マークは、液化石油ガス器具等の中でも、さらに事故のおそれが高い製品（特定液化石油ガス器具等）に表示されるマークで、安全に関する基準を満たしていることを、国の登録を受けた第三者が確認することが求められるマークです。

つまり、新たに定められた安全に関する基準を満たしていることを事業者自ら及び第三者が確認した上で、◇PSLPG マークの表示をしなければ、ガストーチの販売をすることはできません。



規制対象となるガストーチの例

## 粗悪な作りのガストーチが抱えるリスク例

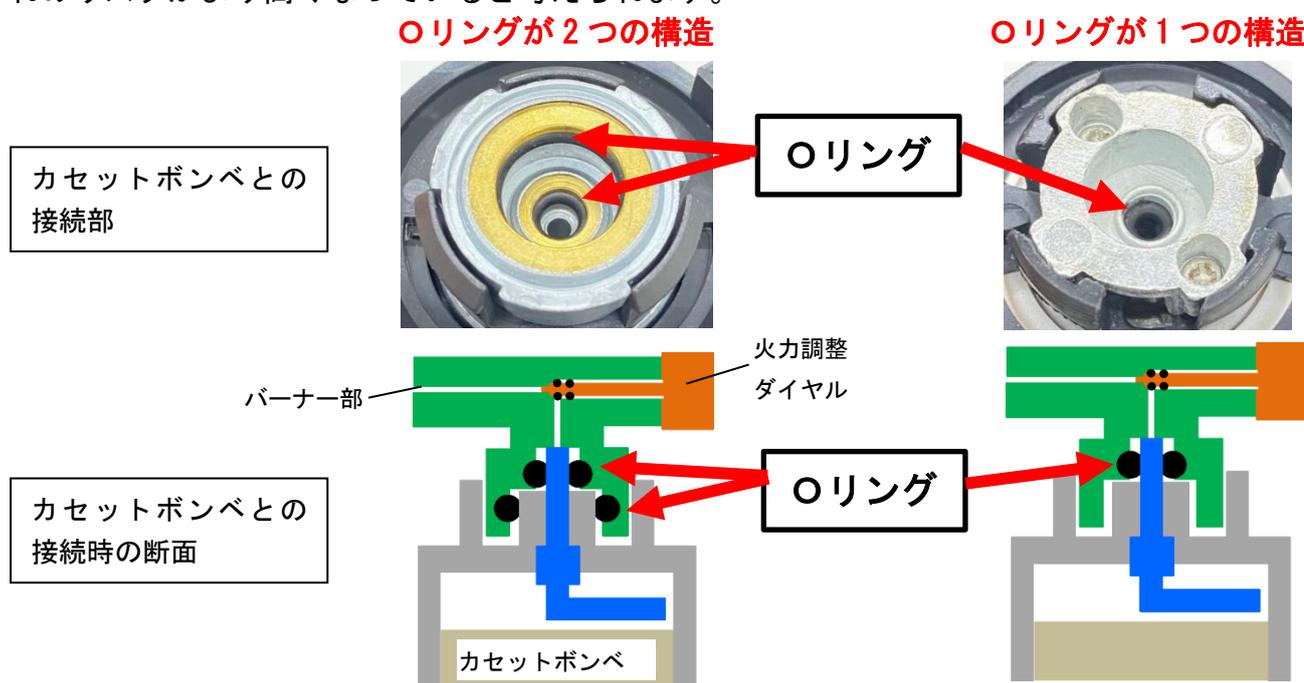
### ●ガス漏れの生じるリスクが高いものがある。

#### ➤ 品質管理が不十分

設計または製造時の不十分な品質管理のため、適切ではない材質や寸法のOリングが使用されていたり、内部に異物が付着していたり、組立や加工の精度が低かったりするものがあります。そのようなガストーチではガスの気密が不十分となり、隙間が生じてガス漏れのおそれがあります。

#### ➤ ガス漏れのリスクが高い構造

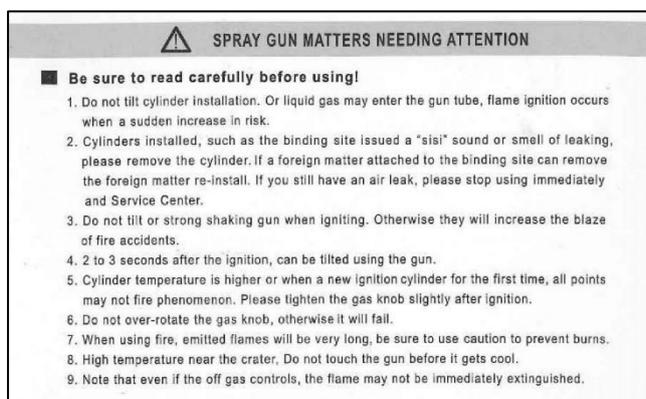
国内メーカー品の多くは、カセットボンベとの接続部に2つのOリングを使い、二段階でガス漏れを防ぐ構造となっています。一方、事故のあった製品をはじめ粗雑な作りのガストーチには、Oリングが1つだけの構造となっているものが多くあり、コスト削減と引き替えに、ガス漏れのリスクがより高くなっていると考えられます。



### ●安全に使用する上で必要な情報が得られない、または得にくいものがある。

製品に取扱説明書が付属していない、または付属していても内容が不十分なものや誤っているもの、外国語で記載されているものがあります。

基本的な仕組みはシンプルであるため直感的に使用できてしまいますが、製品によって性能や機能は異なっているため、安全に使う上での必要な情報が得られないことで、カセットボンベを適切に装着できないなどの誤使用につながり、火災ややけどを負う事故に至るおそれがあります。



外国語で記載された取扱説明書

## 漏れたガスに引火した場合の危険性

漏れているガスに一度引火してしまうと、水をかけたり、水に浸けたりして消火しようとしても、わずかに残った火でまた燃え上がる、ガスが水面で燃え続けるなど、消火が難しい場合があります。そのため、ガス漏れが生じていないか使用する前に点検することが重要となります。



水をかけても容易には消えない

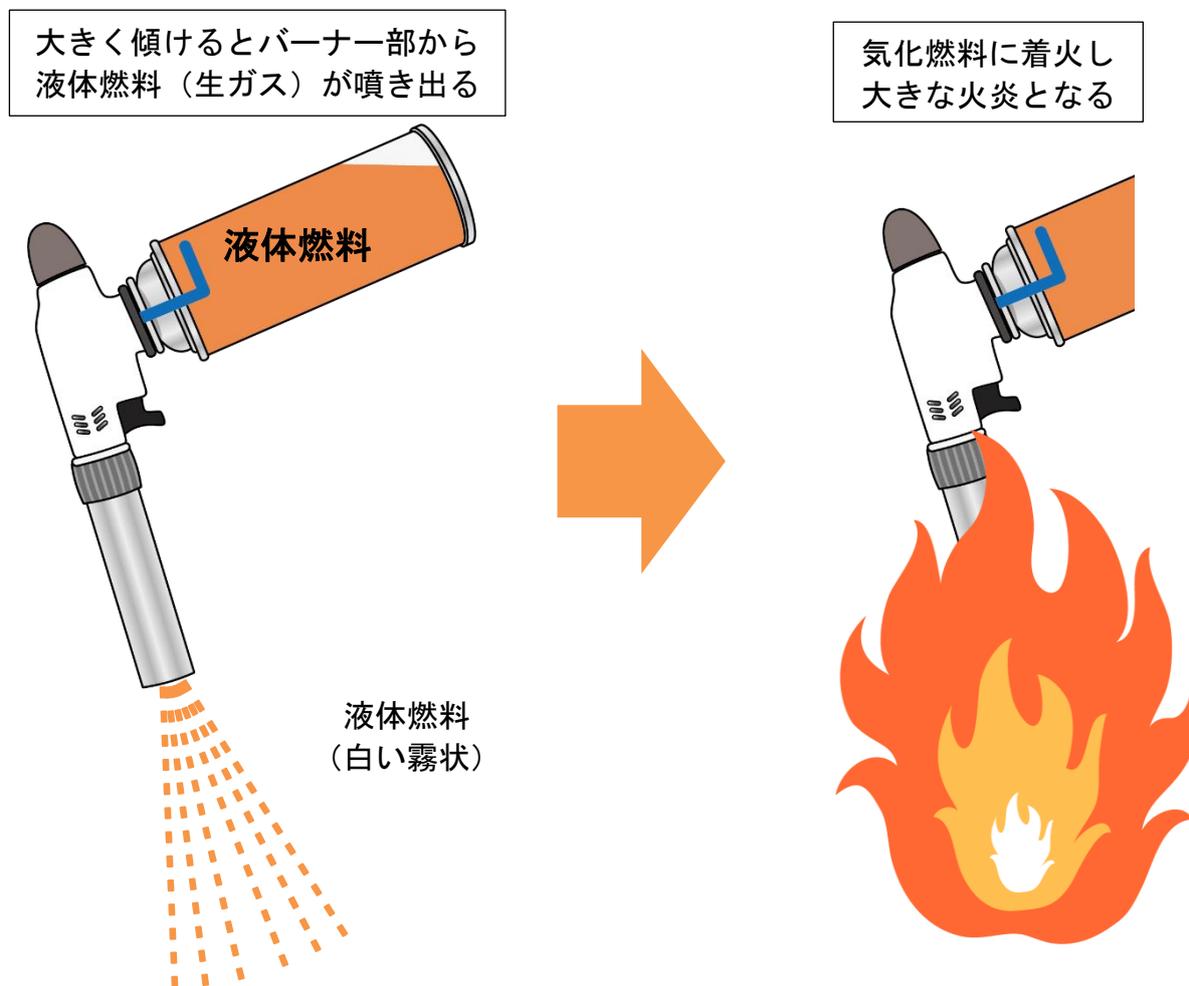


バケツの水面でガスが燃え続ける

なお、引火した火を消せないまま時間が経過すると過熱されたカセットボンベ等が破裂するおそれもあります。対処が困難と判断した場合、**直ちに避難してください。**

## ガストーチの異常燃焼のメカニズム

大きく傾けて使用できないタイプのガストーチを傾けすぎると、下記のように異常燃焼が生じるおそれがあります。



カセットボンベを逆さに向けたり、大きく傾けたりすると、気化していない液体燃料（生ガス）がガストーチに流れ込み、バーナー部から霧状に噴出する。そこに火がつくと、不完全燃焼を起こし、大きく燃え上がってしまう。